

● 人づくりのコンセプト

多世代・実践・現場

木材に関わるすべての人が学びあい、理解を深めるため、木材加工をはじめとした実践的で直接体験できる人づくりを展開しています。ふだんあまり接点のない多様で多世代の人々が木材を通じて関わりを深める仕掛けを行うことで、コミュニティが育つ機会を提供しています。



ポイント 1 加工を通じた学び

加工や製作への参画を通じて、木材の持つ機能やそれを活かした扱い方を、実践を通じて学びます。木材を通じてまちづくりに関わることでまちのことを学び、まちづくりを通じて、木材が持つ様々な魅力に気づくきっかけとなっています。



▲これまで日曜大工をやったことのない人もいつしかマイ工具を

ポイント 2 とにかく現場で

森へ、街へと現場に足を運び、生の声を聴き、現実には起きている問題や動きを肌で感じてもらいながら、木の使い方を考えています。現場本位のPDCAサイクルを通じて、企画から実施、改善までのトータルな学習機会を提供しています。



▲歩道幅の社会実験、不必要に広くなった車道の使い方を考える

ポイント 3 森と街の交わり

生産者と消費者が互いに顔を合わせ、双方が持つ課題やニーズを直接実感しています。定期的な例会で森林組合やまちの住民が直接コミュニケーションを図るほか、森と街との交流会などの企画を積極的に実施しています。



▲森と街の交流会、まちの住民が森に行き、森と木材について学ぶ機会

ポイント 4 多世代を巻き込む

様々なまちの展開では、子供たち向けのワークショップやアーティストとの連携企画など、多様で多世代を巻き込む展開をしています。取り組みを通じて、子供と年長世代がふれあい、木材との関わりを通じたコミュニティの育成を行っています。



▲子供向けのワークショップ、完成後は地区内のレストランの内装に